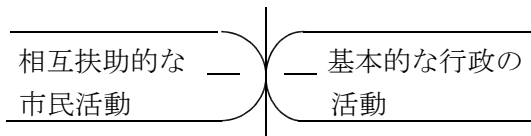


別紙 1

社会環境の変化に伴う市民と行政の役割関係の変容

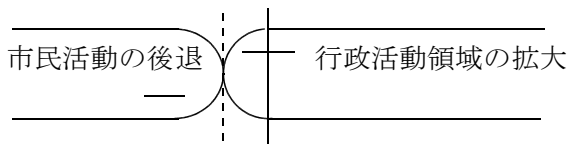
【作成：荒木昭次郎】

1) 安定型社会（農村型社会）にみる市民と行政の役割関係の特徴



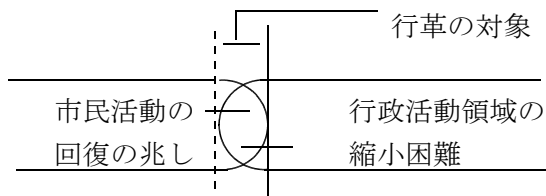
- ・安定しているが、成長・発展はあまり期待できない
- ・経済的にそれほど豊かではない
- ・民・民による共役活動としての協働意識が強い
- ・公は民・民の問題に関与しない

2) 不安定型（都市化型）社会における市民と行政の役割関係の特徴



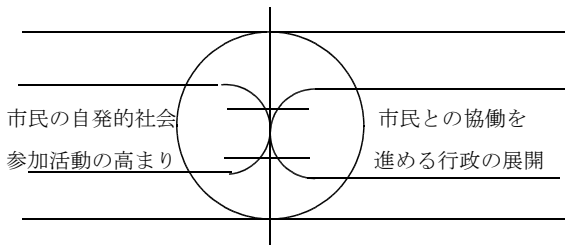
- ・人口移動が激しく、人口を流出させた地域も流入させた地域も不安定化していく
- ・人間関係が希薄化し、家庭や地域社会の秩序形成機能を後退させる
- ・行政需要が爆発的に増大し、行政活動領域を肥大化させていく
- ・地域に対する市民の知識が低下し、自助・共助意識が欠落して行政依存型市民を創出していく

3) 安定型（都市型）社会における市民と行政の役割関係の特徴



- ・役割分担論による責任のなすりつけあい
- ・地域への定住化傾向が強まり、新たな人間関係が芽生えてくる
- ・地域を見る目が肥えてきて、地域の伝統・文化などに関心が向くようになる
- ・生活の場の問題を媒介にして共助活動が徐々に育ってくる
- ・行政への要求・要望等の質的变化が見られ出す

4) 成熟化型社会における市民と行政の役割関係



- ・協働型役割遂行論と責任共有論の台頭
- ・自律的共助意識の向上による民・民協働の進展
- ・市民・企業・行政のトライアングル組織による地域社会づくり
- ・自治意識とコスト意識に基づく行政運営の展開
- ・生活文化圏を単位とする市民・企業・行政からなる活動システムのネットワーク化（行政の制約条件を乗り越える協働型自治行政の確立）

- ・インターローカルリレーションズ
- ・近隣自治政府構想